

目的

生徒の英語 4 技能の定着状況に基づき、学習到達目標の達成に向けた授業改善のPDCAサイクルを構築するための効果的な指導の在り方について理解を深める。

指導に当たった工夫・ポイント

※指導案から一部抜粋

- ①「誰に」「何のために」「何をする」のかを意識させ表現させる。あえて教師からモデル文を示したり、使用する言語材料を指定したりしない。どのような構成でどのような表現を使うことが適切かを考えさせる機会とする。
- ②読み手の理解や納得を得る書き方ができるよう、自分の考えの根拠や理由を意識させ記述できるようにさせる。具体的には、理由をたずねる発問を行ったり、メモ書きの際に自分の考えと理由・根拠を分けて書かせたりする。また、筋道を立てて書くために、必要に応じて文と文のつながりを示す語も指導していく。
- ③単元を通し、ある程度まとまりのある内容を表現する活動を繰り返し設定する。その中で使用された表現については、全体で確認し今後の自己表現につなげさせる。単元のゴールで使用できそうな表現については、帯活動の中でも繰り返し練習させる。また、毎時間の振り返りの中で、今後使用していきたい表現をメモさせる。そうすることで、自ら必要な言語材料を取捨選択できるようにしたい。

関係者の声

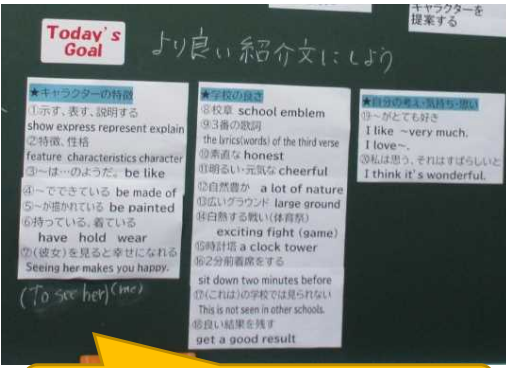
- クラスに支持的風土があり、生徒がお互いを認め合う雰囲気がある。思い切って表現できる。
- 生徒相互のインタラクティブな展開である。やりとりする中で、教師によるフォローアップを行い、正確な英語にすることも必要。
- キャラクターの特徴の紹介を重視する。伝えたい内容を明確にして、それを英語を使ってどう表現するか考える展開にする。



単元のゴールを常時掲示



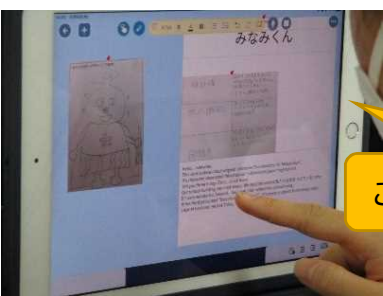
教科書も使って自分で表現を確認



使ってみたい表現を確認



ペアで伝え合い、よさやまねしたい表現を取り入れる



これまでに書いてきたものを端末に蓄積

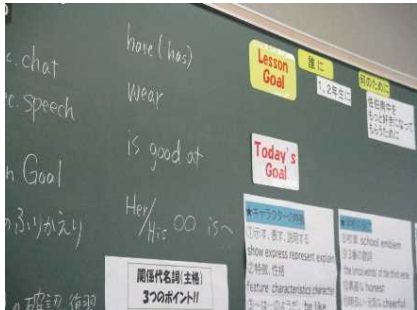
指導の個別化

協働 支持的風土

学習の個性化

【意図的な指導】

- ◆ 生徒の英語をフォローアップして正確な表現へと高める



- ◆ 教科書やポートフォリオを活用して表現を見直す場面



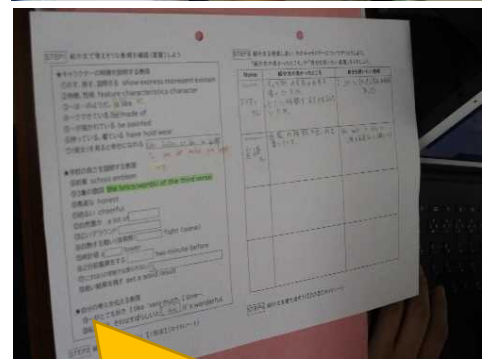
【個に応じた指導】

- ◆ 生徒の学習状況を見取り、必要な支援を行う



【ペアワーク】

- ◆ 自分の書いた文を紹介し合い、そのよさを確認したり、まねしたい表現を取り入れたりする
→ 友だちの表現物から情報の取り出し



発表のよかったところ
使いたい表現をまとめるワークシート

【一人ひとりがつ課題】

- ◆ 1・2年生に佐伯南中をもっと好きになってもらうために、佐伯南中のよさが伝わるようなキャラクターを提案する
→ 学校のよさや自慢など、生徒自身が感じている南中のよさを、自分のオリジナルキャラクターにのせて表現する



【自分の状態の把握】

- ◆ これまでに書いてきたキャラクターの紹介文をタブレット端末上に蓄積して、洗練された表現を自覚することができる